第６４回宮崎県学校体育研究発表大会

中 学 校 部 会

１　研 究 主 題　生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習
～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

２　日程・会場

			9:20		10:00		11:05				15:05		15:45	
		8:50		9:50		10:50		11:55	12:40	14:50		15:40	16:00	
10月27日（金）	中学校部会		受付	視点説明 研究発表 開会行事 （30分）		授業発表Ⅰ （つながり） （50分）		授業発表Ⅱ （各部会） （50分）	休憩 昼食 準備	ワークショップ 授業研究 （130分）		各地区 研究発表 （35分）		閉会行事
			会場：串間市民総合体育館											

①　授業発表

	学　年	単　　元	発　表　者
Ⅰ （つながり）	第１学年	球　　技 （ネット型：バドミントン）	串間市立串間中学校 教諭　尾崎城夫
Ⅱ （地区）	第３学年	保　　健 （　健康と環境　）	日南市立吾田中学校 教諭　田中美津子

②　ワークショップ型授業研究

役職名	氏　　名
指導助言者	宮崎大学教育学部　教授　日髙正博
	宮崎県教育庁スポーツ振興課　指導主事　西田英司
司会者	西都市立都於郡中学校　教諭　金丸宜弘
記録者	宮崎市立清武中学校　教諭　日髙雅友
	都城市立妻ケ丘中学校　教諭　新名悠紀
進　行	延岡市立北川中学校　教諭　原田卓弥

③　地区研究発表

	【地区】 研究発表題目	発表者
1	【西臼杵】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 ～ICT機器を活用した効果的な指導方法について～	日之影町立日之影中学校 教諭　甲斐一成
2	【延岡】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	延岡市立西階中学校 教諭　徳渕喬
3	【東臼杵】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	美郷町立美郷北義務教育学校 教諭　佐藤浩行
4	【西都・児湯】 共生の視点に立ったソフトボールの指導方法の工夫	新富町立富田中学校 教諭　古木悠貴
5	【西諸】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	小林市立三松中学校 教諭　岡上桂

1　研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習
～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2　主題設定の理由

令和3年1月23日に行われた中央教育審議会（以下「令和3年答申」という。）の「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、「人工知能（AI），ビッグデータ，Internet of Things（IoT），ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。また、学習指導要領の改訂に関する「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下「平成 28 年答申」という。）においても，社会の変化が加速度を増し，複雑で予測困難となってきていることが指摘されたが，新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により，その指摘が現実のものとなっている。このように急激に変化する時代の中で，我が国の学校教育には，一人一人の児童生徒が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるよう，その資質・能力を育成することが求められている。」と見解を示した。ここでいう資質・能力の中に「教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力」と「対話や協働を通じて知識やアイディアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」がある。これは、学習指導要領に示されている三つの資質・能力のうち、「思考力、判断力、表現力等」の内容に関連するものと考えられる。また、中学校学習指導要領解説 保健体育編、2 保健体育科改訂の趣旨及び要点の中の平成20年改訂の学習指導要領の課題には、「知識及び技能」についての課題はなく、「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」についての課題が挙げられている。

「思考力・判断力・表現力等」は、4つの領域で構成されている。「運動に関する思考力、判断力、表現力等」「体力、健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」「生涯スポーツ実践に関する思考力、判断力、表現力等」の4つであるが、本地区では「運動に関する思考力、判断力、表現力等」についての授業研究は盛んに行ってきたものの、その他の「思考力、判断力、表現力等」の授業研究は行ってこなかった。保健分野に至っては「思考力、判断力、表現力等」のうち「表現力」に関して授業研究を深めることができていなかった。

以上のことを踏まえて、「思考力、判断力、表現力等」に焦点を当て、これまで行えていなかった部分に着目し、研究を進めることによって、保健体育科の課題解決に迫れるのではないかと考え、主題、副題の設定に至った。

3　研究仮説

保健体育科学習において、「思考力、判断力、表現力等」を柱とし、指導と評価の一体化や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を展開することによって、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、運動やスポーツを「する」「見る」「支える」「知る」等の豊かなスポーツライフを実現し、運動を継続するための生徒の育成に繋がっていくものと考える。

4　研究の内容

（1）　指導と評価の一体化

○　指導内容の系統化⇒学習内容系統表及び学習内容相関図の作成及び活用

（2）　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

○　思考ツール活用⇒思考ツール活用事例集の作成（保健編）

（3）　共生の視点に立った指導内容の工夫

○　教材・教具の工夫⇒ハンディキャップゲームの開発・教具の開発

5　研究方法

①　地区研究推進委員会での指導案検討及び教材・教具の工夫

②　第1回地区研究部会　⇒　第1学年　球技　ネット型　バドミントン　研究授業

授業者：日南市立南郷中学校　教諭　中屋敷　卓

③　第2回地区研究部会　⇒　午前の部：宮崎県学校体育研究発表大会の授業者による模擬授業

授業者：串間市立串間中学校　教諭　尾崎　城夫

授業者：日南市立吾田中学校　教諭　田中　美津子

午後の部：体育班・保健班に分かれて思考ツール事例集の作成

④　宮崎県学校体育研究発表大会

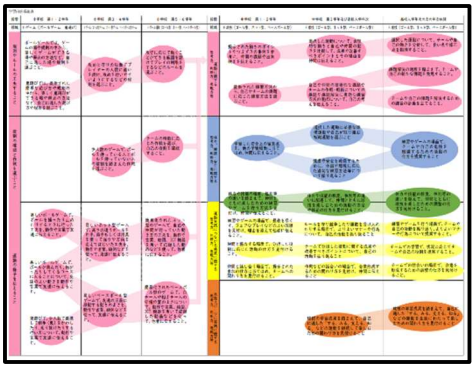
・　第1学年　体育分野　E　球技　ネット型　バドミントン　　授業者：串間市立串間中学校　教諭　尾崎　城夫

・　第3学年　保健分野　「健康と環境」　　授業者：日南市立吾田中学校　教諭　田中　美津子

6　研究の実際

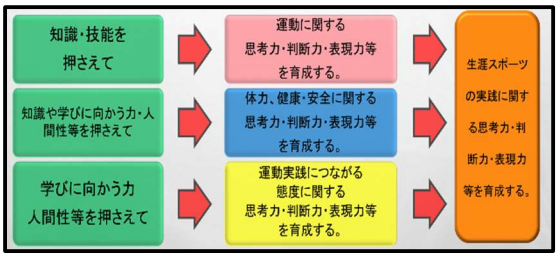
（1）　指導と評価の一体化・・・学習内容系統表及び学習内容相関図の作成及び活用について

「思考力、判断力、表現力等」に焦点を当て研究を進めるにあたって、はじめに指導内容の系統化を図るために学習内容系統表を作成した。小学校段階では、「運動に関する思考力、判断力、表現力等」のみの学習内容であり、中学校段階から「体力、健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」「生涯スポーツの実践に関する思考力、判断力、表現力等」の学習内容が表れ、思考力、判断力、表現力等に広がりが出てくることが分かった。

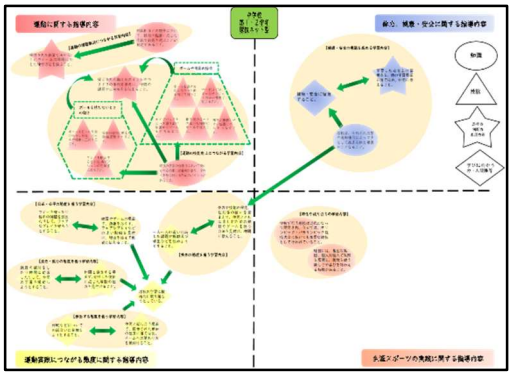


【学習内容系統表　思考力・判断力・表現力等編】

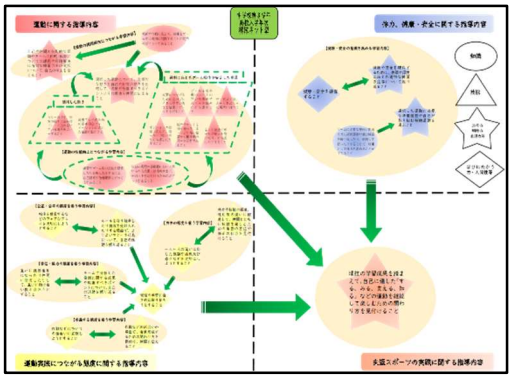
しかし、この学習内容系統表は校種間での縦のつながりを段階的に表しているものにすぎず、単元計画を作成する上でこれを応用するには不十分であると考えた。研究を進めていく中で、「思考力、判断力、表現力等」は、「知識及び技能」や「学びに向かう力、人間性等」と密接な関係性があることがわかった。平成20年改訂の学習指導要領の課題にあった「習得した知識や技能を活用して課題解決すること」という内容から次のような学習の順序が成り立つのではないかと考えた。



この学習の順序を活かして、それぞれの学習内容の関係性を分類、整理し、順序を矢印で記したものが学習内容相関図である。

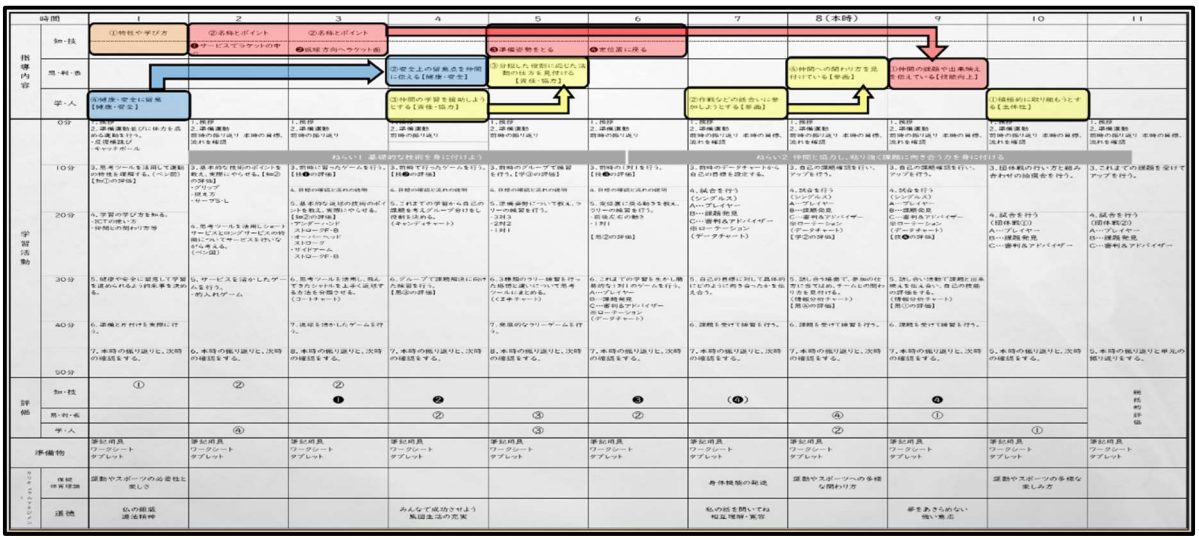


【第1･2学年 球技 ネット型 学習内容相関図】



【第3学年 球技 ネット型 学習内容相関図】

この学習内容相関図を活かし単元計画の作成を行った。学習内容の順序を踏まえて指導内容を設定し、評価機会の設定においても指導と評価の一体化が図れるように単元構造図を作成した。

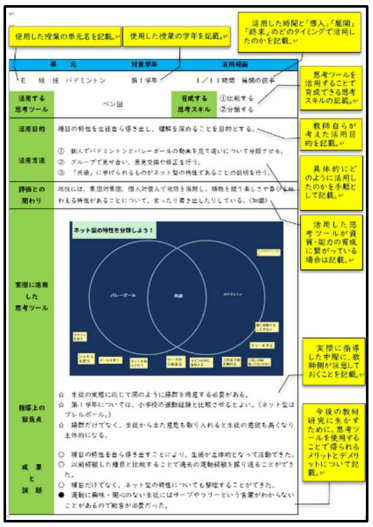


（2） 「主体的･対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善･･思考ツールの活用及び事例集作成について

本地区は、昨年度から思考ツールを活用し研究を行ってきた。当初は、保健分野において思考ツールの活用を行ってきたが、体育分野においても効果的な実践をしてみようと様々な種類のツールを用いて実践を行った。

保健分野では、知識の整理、新たな課題の創出、表現活動での資料として用いた。体育分野においては、運動の課題発見や目標設定、運動の違いや特性の整理、出来映えや課題を他者に伝えるときの資料として用いた。教材研究をする中で、思考ツールを活用する際は、生徒たちに「どのようなことを考えさせたいか」という目的を考え、評価との結びつきをもちながら活用することで、より効果的な活用へと繋がることがわかった。

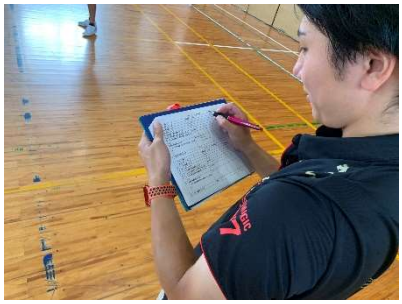
これまで活用してきた内容を整理し、目的、方法、成果と課題を明記して思考ツール活用事例集を作成した。



（3）　共生の視点に立った指導内容の工夫・・・教材・教具の工夫について

【教材の工夫（ハンディキャップゲーム）】

バドミントンの授業を構想する中で、「公正・公平」の態度について思考・判断・表現しやすいゲーム性を考える必要があった。そこで、生徒自らハンディキャップを自己決定しゲームを行う方法を開発した。自陣のコートを9分割にし、3つのエリアにマーカーを置いて、互いの条件に合わせてゲームを行う。互いの条件が違う中で、いかにフェアプレイを意識しながらゲームできるかがカギとなる。第2回研究部会では、模擬授業の中で教師が生徒役となり、実際に行いながら改善点を出し合った。



【教具の工夫（ファミリーバドミントン・トクミントン）】

今回、運動が苦手な生徒も障害のある生徒も運動を楽しめるようにラケットの工夫を行った。空間認知が弱い子にとってラケット面にシャトルを当てることは非常に困難なことである。そのつまずきを解消しようと、ファミリーバドミントンという競技のラケットを使用して授業を行った。このラケットは柄が短く、ラケット面が手元に近くなるのでラケット面にシャトルが当たりやすくなった。しかし、それでもラケット面にシャトルが当たらない生徒がいたので、ラケット面を更に大きくし、どのような生徒でもラケット面にシャトルを当てることができるようなラケットの開発を行った。宮崎県中学校体育連盟研究部の徳渕教諭に協力していただき、トクミントンラケットを制作することができた。

【ファミリーバドミントン】

【トクミントンラケット】

7　成果と課題

成　果

○　学習内容系統表並びに学習内容相関図の作成及び活用を行ったことで、理論研究が深まり、明確で根拠ある単元計画の作成や授業の構想をすることができた。

○　思考ツールの活用を行ったことで、生徒たちの思考・判断・表現の活動が活発になり、教師側も「何を考えさせたいのか」という目的をもって授業を構想することができた。また、評価との結びつきを意識した活用をしたことで効果的な活用を図ることができた。

○　教材・教具の工夫によって、誰でも運動を楽しめる授業づくりができ、生徒一人一人が取り残されることなく授業を展開することができた。

課　題

●　体育分野の思考ツールの活用において、運動量の確保という点で欠点があるため、今後は効率的に活用する方法を検討する必要がある。

●　教材の工夫に関して、技能のレベルアップを図るためだけのゲームの工夫ではなく、今回のような「学びに向かう力、人間性等」を育成するための教材を考えていくことが必要である。

ア、事前研究会からの変化

(1)　体育分野　球技：ネット型　バドミントン

【事前研究会反省１】
本時のめあて「グッドプレイヤーを選ぼう」と本時の目標「フェアプレイ」が繋がっていることの理解が難しい。

・　「グッドプレイヤー」から連想されることが「良いプレイをした人」になってしまい、運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等の授業であったがプレー（技能）に注目されてしまうと考え、めあてを「互いのフェアプレイをほめあう」という内容に変更した。

【事前研究会反省２】
フェアプレイの具体的な行動について、生徒がしっかりと理解した上で授業を展開する必要がある。

・　単元計画において、本時の前に学びに向かう力、人間性等の指導内容の公正・公平について授業を行っていたが、態度面の知識としての理解が十分ではなかったため、体育理論の「スポーツへの多様な関わり方」を行い、本時を迎えることにした。

【事前研究会反省３】
ハンディキャップゲームを行ったがハンディキャップを与えないといけないぐらい技能差があるように思えなかった。

・　事前研究会で授業を行った学級については、運動能力が高い生徒がほとんどで技能差がなかったため効果的とはいえなかったが、大会当日に授業を行う学級は技能差があったため効果的であった。
・　技能差がある生徒については、トクミントンラケットを使用させてラケット操作におけるつまずきを解消した。そのことにより、学習意欲を落とすことなく本番を迎えることができた。

【事前研究会反省４】
ハンディキャップゲームをする意味や意義について、しっかりと生徒たちが理解して行っていないように感じた。

・　本時を迎えるまでの授業の中で、ハンディキャップゲームの説明や行い方をパターンごとに設定し、実践させ本時を迎えることができた。

【事前研究会反省５】
これまでの学習の流れが分かるような物があるとよい。

・　本時までのワークシートを印刷し掲示物を作成した。また、本時で使うワークシートについては、別紙で印刷して配付を行った。

【事前研究会反省６】
生徒の動きから教師の声かけが適切な声かけではなかったような気がした。

・　普段から体育の授業において公正・公平な声かけを行うよう授業を展開し、本時では、めあてに沿った声かけを行うことができた。生徒がより活発になり、思考力、判断力、表現力等の育成に繋がった。

(2)　保健分野　「健康と環境」

【事前研究会反省１】
生徒が会場の広さや参観者の人数の多さに緊張しており、授業展開で個人思考の時間が長かったので、勢いのある授業ではなかった。

・　始まりの挨拶は体育の授業と同じぐらい声を出して挨拶させ、話し合いの前にはアイスブレイキングを取り入れ、緊張緩和をさせた。
・　生徒が会場に到着してからは、誘導係が待機時間に生徒たちをほぐしておくようにした。
・　あらかじめ個人思考を自宅で考えさせるようにし、個人思考の時間を短くした。

【事前研究会反省２】
生徒が考えた環境問題の解決策を全体で共有する時間を加えたい。

・　展開の終盤で環境問題の解決策について科学的な根拠を入れて考えられている生徒を２名選出し、全体の前で発表させた。

○　授業者独自の工夫

・　表現をする際の発表原稿を考えることが苦手な生徒がいる状況を考え、ワークシートを３パターン用意し、個別最適な学びとなるような手立てを入れた。

イ、視点に対する最終的な成果

(1)　学習内容系統表及び学習内容相関図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか。

・　「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の学習内容を整理・分類し、つながりを発見できた。
・　学習内容のつながりを考えて単元計画の指導配置をしたことで、毎時間の授業の目的が単発的なものではなく一貫性のあるものとなった。
・　「思考力、判断力、表現力等」を４つの分類で示したことで、「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性等」との関係性がわかったことで、評価機会が的確に設定でき、指導と評価の一体化につながった。
・　学習内容には順序性があることを発見でき、単元計画に応用することができた。

(2)　授業の目標を達成するために、効果的で効率的な思考ツールの活用はできていたか。

・　バドミントンの授業での思考ツールの活用については、思考力、判断力、表現力等を育成する時間の確保と運動時間の確保のバランスが重要になってくることがわかった。運動時間をしっかりと確保するためにも、思考ツールを活用する際は、あらかじめ語群を設定したり、選択できるようなワークシートにしたりして、時間短縮になるような手立てが必要なことがわかった。
・　保健の授業の思考ツールについては、毎時間多様な思考ツールを使うことで生徒が自ら比較・分類・焦点化したり、知識を習得したりする効果が見られた。また、それらの思考ツールを用いて発表をすることによって、思考したことを表現する力に変換することもできるので効率的なツールの活用となった。
・　思考ツールの活用によって粘り強い学習となり、学びに向かう力、人間性等の涵養に繋がった。

■　授業の様子

(1)　第１学年　球技　「バドミントン」

【授業者がフェアプレイについて確認する様子】

【ゲームを見ながら端末に記録する様子】

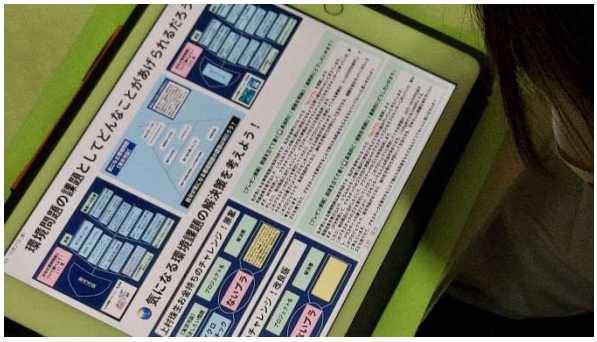
【記録をもとにお互いを褒め合う様子】

【苦手な生徒が教具を使ってゲームをする様子】

(2)　第３学年　保健　「健康と環境」

【個人思考時間に机間巡視する様子】

【生徒が解決策を班内で発表する様子】



【思考ツールを用いたワークシート】

【単元のまとめを説明する様子】

ワークショップ型授業研究会について

中学校部会：バドミントン・保健

１　日程　１２：４０～１４：５０（１３０分）

	時間	内容	授業者	助言者
12:40～	1分	指導助言者紹介	着席	着席
12:41～	6分	授業者反省（３分×２名） ・串間中学校　　尾﨑　城夫　教諭 ・吾田中学校　　田中美津子　教諭	着席	着席
12:47～	10分	質疑･応答	着席	着席
12:57～	3分	ワークショップ型授業研究会の説明	着席	着席
13:00～	90分	ワークショップ 「球技：バドミントン」13:00~13:40 「保健：健康と環境」　13:50~14:30 １　指導と評価の一体化 ○　学習内容系統表及び学習内容相関図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか。 ２　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ○　授業の目標を達成するために、効率的で効果的な思考ツールの活用ができていたか。	授業反省	周回
14:30～	２０分	指導講評（１０分×２名） ・日髙　正博　教授　　・西田　英司　指導主事	着席	着席

２　授業参観の視点

【中学校部会公開授業「第１学年　球技：バドミントン」「第３学年　保健：健康と環境」】
１　指導と評価の一体化
○　学習内容系統表及び学習内容相関図の作成は適切で効果的な活用がなされていたか。
２　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
○　授業の目標を達成するために、効率的で効果的な思考ツールの活用ができていたか。

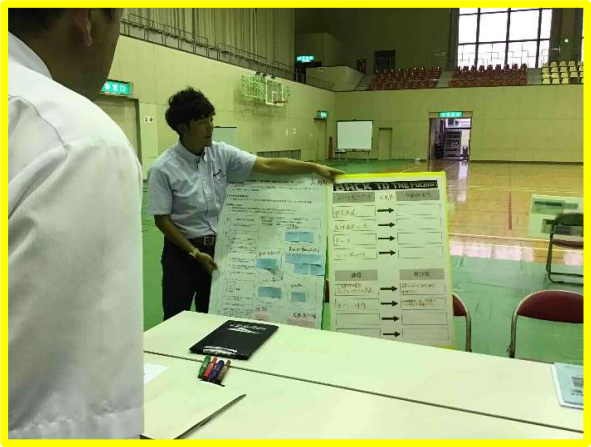
３　ワークショップの進め方

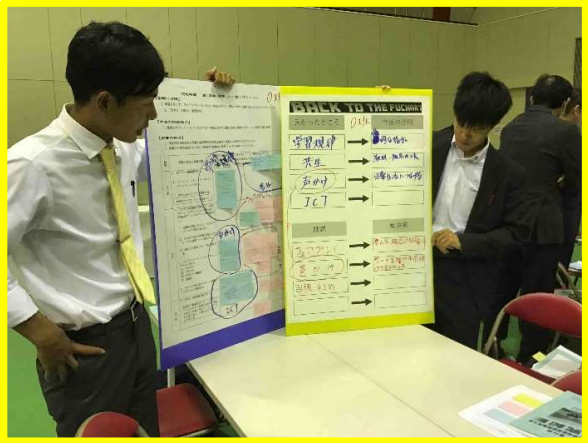
※授業開始前に付箋紙を配付する。
○付箋紙へ授業参観の視点で記入をする。（主観を避け、事実を客観的に表現する。）
【青色の付箋紙】・・・『生徒の良いところ』『教師の良いところ』
【赤色の付箋紙】・・・『生徒の改善点』『教師の改善点』
【黄色の付箋紙】・・・『質問したい点』『疑問点』
① 授業参観時に、模造紙（学習指導過程拡大）に黄色の付箋紙を貼り付ける。
② 研究部員で、付箋を整理し、授業研究会までに内容を授業者に伝える。
③ 授業者は、その質問に沿って、応答する。
※　ワークショップ時に新たな質問点・疑問点が生じた場合は、黄色の付箋紙を活用する。

グループで各自の分析を述べながら付箋を台紙に貼っていく。
13:00～13:10（10分間）
13:50～14:00（10分間）
→
グループ協議中、授業者と指導者は、授業について分析する。
→
付箋を整理して、見出しを付けて（ラベリング）意見を整理する。
13:10～13:20（10分間）
14:00～14:10（10分間）
↓
良かったところは、今後の活用方法について、課題に対しては、解決策を考える。
13:20～13:30（10分間）
14:10～14:20（10分間）
→
発表する。発表は各班１名ずつローテーションで行う。その際、発表者以外の班員は別の班の発表を聞きに行く。（３分程度）
13:30～13:40（10分間）
14:20～14:30（10分間）

・１枚の付箋紙には一つのことを記入する。
・気付いたことは些細なことも含めてたくさん書く。
・簡潔に大きな文字で記入する。
・名前も付ける。

・　ワークショップの様子





授業者振り返り

串間市立串間中学校　尾﨑　城夫　教諭

- プレーヤー同士の声掛けの具体性が足りなかった。
- 簡単なワードを指導してきたが、広がりがみられなかった
- 振り返りで他者評価が自己評価になっていた。振り返りの説明、ワークシートの使い方をもう少し指導しておけばよかった。

質疑応答

	内容
質疑	ハンディの意図は何か？
応答	運動が苦手な生徒でも楽しめるゲームの工夫として取り入れた。コートが広いとゲームが難しくなるので、技能差を踏まえてのハンディキャップゲームの設定をした。
質疑	単元５間目の「フェアプレイ」の評価とあるが、今回の授業と関係があるのか？
応答	ある。５間目の内容をもとに本時の思考・判断・表現の授業を行っている。また、声掛けの言葉については、どうすれば楽しくなるのか？という視点で生徒と一緒に考えた。

指導講評

宮崎大学教育学部　日髙　正博　教授

・バドミントンのショットは３つのストロークから打ち出される。その中で、一番使うのがオーバーヘッドストロークであるが、視界の中にシャトルとラケットを入れておいた方が空振りしないという「手と目の協応」が邪魔をするので難しい。また、投動作が身に付いていないので、他の球技と関連させて高めさせる必要がある。
・競争型であるため、最後まで勝ちを求めることを忘れないでいたい。そういう意味でも、勝った生徒が負けた生徒に「どんまい」という言葉がけだけではなく、「よっしゃ」という言葉が出ても良かったのではないか。
・ハンディキャップは、技能差を乗り越えてみんなで楽しもうということである。決して、お情けではない。陸上の単元では、ハンディキャップレースである「８秒間走」という教材もある。
・ハンディキャップは、技能差に関わらずみんなが楽しむための知恵である。ハンディキャップでのゲームを楽しめるということは、お互いの違いを認め、乗り越えることであり、まさに実践を伴った「人権教育」そのものである。

宮崎県教育庁スポーツ振興課　西田　英司　指導主事

・上手くなるため、覚えるためだけではない。豊かなスポーツライフにつながる授業であった。
・三つの資質・能力をバランスよく育成するための単元計画となっていたことが素晴らしい。また、今回「学びに向かう力、人間性等」に注視した授業ができ、特に単元全体の中で「フェアプレイとは何なのか」ということを検討できたことはとても良かった。ただ、球技の特性を味わうことも大事にしてほしい。
・思考ツールは、ロイロノートだけでなく、パワーポイントでもジャムボードでもできるので、各学校でぜひ活用してほしい。
・共生の視点に立った、教材（ハンディキャップゲーム）、教具(大きいラケット)の工夫が良かった。
・目指すフェアプレイを個人で設定することにより、一人一人が問いをもち、主体的に学ぶことにつながり、個別最適化の学びにもつながった。
・研究部長を中心に地区全体が一体となり、県の研究部とも連携を図ることができた研究発表だった。

授業者振り返り

日南市立吾田中学校　田中　美津子　教諭

- 導入のタイムマネジメントは、後半に響いてしまい、まとめの時間が足りなかった。
- 今回は提出箱を設定した。共有ノートを活用したかったが、固まることがあった。

質疑応答

	内容
質疑	思考ツールの選び方は？
応答	ランキング、考えを一つに絞りたいなどの用途に合った思考ツールを使用した。 複数の視点がある時には、フィッシュボーンやくまでチャートを使用した。また、アイデアを出す時は、キャンディーチャートを使用した。
質疑	グルーピングは？
応答	キーマン（班長）が必要。そこを考えて編成した。
質疑	ブラッシュアップ後の班編成は？
応答	前の班で色々な意見を聞き、さらにもっとたくさんの意見を聞くために、あえて班編成を変えて班を組ませた。

指導講評

宮崎大学教育学部　日髙　正博　教授

・明るくハツラツとした、好感のもてる授業であった。
・生徒の知識が整理されている。保健の目的は、知識をより質的に高めることである。今回の授業では環境問題の解決策についてアウトプットすることで知識の質を高めていた。
・生徒たちは色々なレベルの知識を獲得している。教科書の知識、メディアを通して獲得した知識、友達から教えてもらった知識、体験を通して得た知識などであるが、これらの知識は、繋がった知識もあればバラバラな知識もある。重要なことは、獲得した知識が繋がり、生きて働く知識にもっていくことではないだろうか。そういう意味で、今回の授業は、生きて働く知識へと高める上で有効な授業であった。
・まとめがよかった。授業者の思いが生徒たちにストレートに伝わった。また、他教科の分野にもつながる内容であった。
・自分の言葉で発表をしている生徒がいた。そういった生徒の育成を目指してほしい。

宮崎県教育庁スポーツ振興課　西田　英司　指導主事

・導入の工夫として動画を視聴させたことで、興味・関心を高め、主体的に学ぶことができた。
・対話して終わりではなく、更に自分の意見をブラッシュアップさせる活動が良かった。ただ、ブラッシュアップする方法については今後検討していく必要がある。
・単元を通して思考ツールを活用したことで、主体的・対話的で深い学びを実現した授業となった。
・話型のワークシートをパターン別に用意したことで、それぞれの能力に応じた個別最適化の学びにつながった。
・本時のまとめだけでなく、単元のまとめとして振り返りをさせたことで、学習内容が深まった。
・３年間かけて何度も授業を検証するなど、時間をかけて授業づくり及び研究を進めてきたことが大変素晴らしい。研究部長を中心に地区全体が一体となり、県の研究部とも連携を図ることができた研究発表だった。